

諏訪小だより

令和6年9月27日
9月特別号
多摩市立諏訪小学校
校長 齋藤 幸之介

一人一人のすてきな、そしてともするとなかなか見えない力を追い求めて
—前期終了の御報告と御礼を兼ねて—

校長 齋藤幸之介

酷暑とも言われた今年の残暑も今週になって急に去って行ったかのように気温が下がりました。朝晩は肌寒い、という表現が合致していると思うのですが、皆様はいかがお感じでしょうか。

まず、お詫びを申し上げたいと思います。

本年度の開校30周年に際し、記念のTシャツを制作してお買い求めいただくように進めてまいりました。しかし、皆様への御通知、特にその目的等をお知らせするのが十分でなく、御不審に思われた方もいらっしゃいました。こちらの不手際とここにお詫びを申し上げますとともに、今後行事等での着用を中心に活用をしてみたい、とここに申し上げ、御理解を賜れればと存じます。すみませんでした。

さて、本日をもって前期を終了いたしましたことを御報告申し上げます。4月8日より始まりました令和6年度は、引き取り訓練や学校公開を始めとする学校行事を滞りなく行い、また平素の教育活動も、例えば多くの学年が地域に出て様々な取組を行うなど、多様化を図ってまいりました。夏休みには皆様に多大なるお力添えを賜りながら子供たちは「夏チャレ」に取り組み、過日実施した展示会には多くの方々に御参観いただきました。改めて感謝を申し上げたいと思います。

本日、各学級担任は子供たち一人一人に通知表を渡しました。例年通り、各教科の評定と共に、所見という形で子供たち一人一人の活動の様子とそこに見られるよさを記述しました。

今日、子供たちの学力は、「知識や技能」「考える力や表現する力」「学習に主体的に取り組む態度」という三つの観点で評価します。以前は、例えば「100点をとれた」というように、点数がその子の力とされました。今でも点数に一喜一憂する子供たちの姿は見られますが、少し前から点数自体を評価とすることは後退していると言ってよいでしょう。私共はできるだけ子供たちが学ぶ過程で発

揮する多様な力を見取り、そして高めていくという使命を与えられたからであります。

もちろん、点数で測りやすい力もあります。例えば各学年で習う漢字をいくつ覚えたか、ということです。かつてはこのことに躍起になって取り組ませたこともありました。私の小学校時代はまさにそうであった、と振り返っています。

しかし、口幅ったくなくて恐縮ですが、「資質・能力を育てる」ことが教育の目標となっています。生まれつきもっている力を伸ばし、経験による力を身に付けるということです。これらを授業を通して叶えていくことが求められています。

正直、全ての場面における子供たちの姿を見取り、意味付けられるわけではありません。しかし、本校教員できるだけ多くの事実から、子供たちのよさを見出し、その意味をお伝えしようと努力しました。この評価という行為は、職人になぞらえて「目利き」などと言うことがあります。高度な認識と見取るための技能が必要です。正直まだまだ未熟な点もあり、本校教員一人一人の評価する力量をさらに向上させる必要もありますが、本日に向けて確実に準備をしてお渡しできましたことを御報告申し上げます。

子供たちの頑張りと確実に育った資質・能力を御家族で御確認いただき、後期の目標を立てる一助としていただければ幸いです。私共は「さらによき目利き」になるべく精進いたします。

来週30日(月)より早速後期が始まります。短い期間の休みですが、心機一転新たな生活を始めたいと思います。

92日間、ありがとうございました。今後共御理解と御協力を賜りたく存じます。

参考

「教育・学歴の経済学」

(鈴木俊光 2011年 Chuo Online)

